

# 「革新的GX技術創出事業(GteX)」ロジックモデル (R5年度要求額:60億円(新規))

## 現状

- 世界的な炭素中立化に向けた動きやESG投資の流れ等を受け、関連する市場の急速な成長が見込まれ、GX(グリーン・トランスフォーメーション)に向けた官民投資が急拡大。
- 2050年カーボンニュートラル実現は非常に野心的な目標であり、既存技術の展開・実装のみでは達成が困難。

## 課題

- 現状、カーボンニュートラル実現に向け、経産省によるGI基金において、企業等を支援。こうした取組に加えて、既存技術の展開・実装のみでは達成が困難なボトルネック課題について、アカデミアの基盤研究推進による解決が強く求められている。
- 日本のアカデミアでは、それぞれの領域で優れた成果を上げている研究者がおり、社会課題解決にむけては、こうした技術ポテンシャルを最大限活用しつつ、周辺技術とのすり合わせを行う等、統合的な研究開発推進が必要。

## 本事業の目的

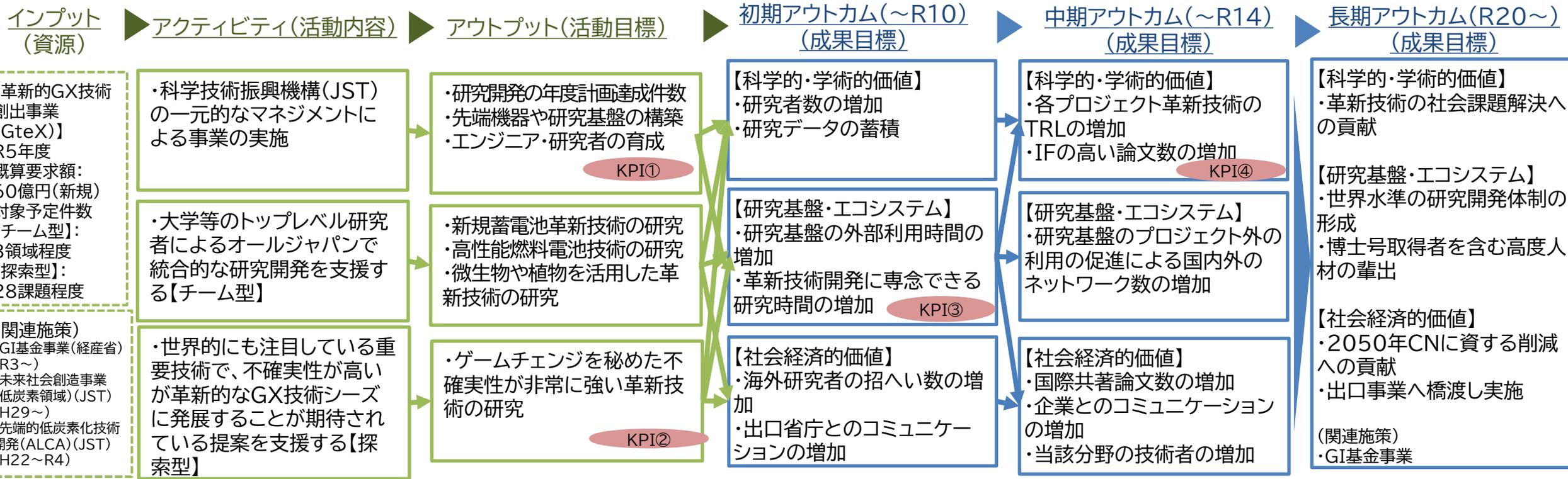
- アカデミアが強みを有する関連分野へ集中投資し、将来の、社会実装を見据えた研究活動を実施

### (現状・課題を示すデータ)

- 日本機関所属研究者が論文数(2017~21年の合計)の順位で上位に位置するトピックの例

トピックのキーワード	日本機関所属研究者の順位(論文数)
電極、固体電解質、ガーネット	1~3位
電極; アノード; イットリア安定化ジルコニア	1, 8位
廃水、嫌気性処理、都市排水	1, 2, 6, 8~10位

NISTEPの協力のもと文科省が作成  
(出典: ELSEVIER社 (SciVal))



### 測定指標と目標値

KPI ①

- 年度計画達成件数(R5年〇件⇒R6年 前年以上)
- エンジニア・研究者数(R5年〇件⇒R6年 前年以上)

KPI ②

- 支援した研究課題の数(R5年〇件⇒R6年 前年以上)

KPI ③

- 研究時間の増加 (R6年 前年以上⇒R8年 前年以上)

KPI ④

- 各技術のTRL (R5年平均1⇒R14年平均3)
- 高IFの論文数の増加率(R5年 前年以上 ⇒R14年 R5年度年比+100%)